

# 障がい者の福祉施設と地域住民の協働関係

## —協働実現までのプロセス—

関 舞穂 (樋口ゼミナール)

HS22-1009B

### 論文の目次

はじめに

第 1 章 障がい者の福祉施設と地域住民による  
「協働」について

第 1 節 「協働」の定義について

第 2 節 障がい者の福祉施設と地域住民が  
協働関係にいたるプロセス

第 2 章 社会福祉施設と地域の関わりについて

第 1 節 地域において社会福祉施設に求めら  
れる役割について

第 2 節 障がい者の福祉施設と地域住民の  
関わりの事例の先行研究

第 3 章 調査対象の社会福祉法人とその地域と  
の関わり方—てりてりかんぱにいと武蔵野会—

第 1 節 社会福祉法人てりてりかんぱにに  
ついて

第 2 節 社会福祉法人武蔵野会の事業所に  
ついて

第 4 章 障がい者の福祉施設と地域住民の協働  
のプロセス

第 1 節 障がい者の福祉施設と地域住民が  
「出会う」

第 2 節 障がい者の福祉施設と地域住民が  
「一緒に活動する」

第 3 節 障がい者の福祉施設と地域住民の  
協力から生じる「助け合い」

第 4 節 協働にいたるプロセスと協働関係の  
検証

おわりに

### 論文の要旨

はじめに

筆者は、3 年次に行った就労継続支援 B 型事

業所での調査で、施設職員が地域住民との支え合いを大切にしていることを知り、障がい者福祉施設と地域住民がどのように関わり、互いに理解を深めているのかということに関心を抱いた。そして、本論文では「障がい者の福祉施設の職員・利用者と地域住民の地域の中での出会いが、互いを知り、理解したり、交流を深めたりするきっかけになっている。そして、“地域の行事の共同運営”のような、協力して行う活動に取り組む経験を通して親交を深め、信頼関係を築いている。また、一緒に活動する中で助け合える関係を構築しており、これらのプロセスが障がい者の福祉施設と地域住民の協働を実現させている」という仮説を立てた。

本論文は、筆者が 2024 年 9 月 18 日と 2025 年 9 月 16 日に京都府京都市にある社会福祉法人てりてりかんぱにいのジョイント・ほっとにて、生活支援員 S 氏 (40 代男性) に対して行ったインタビューと、2025 年 9 月 23 日に東京都文京区にある社会福祉法人武蔵野会のリアン文京にて、職員の N 氏 (60 代女性) に対して行ったインタビューに基づいて記述する。また、両者ともに後日メールで追加の質問をし、回答をいただいた。

### 第 1 章 障がい者の福祉施設と地域住民による「協働」について

第 1 章では、南多恵子 (2024) の先行研究をもとに、障がい者福祉施設と住民の協働を、「障がい者の福祉施設の職員・利用者と地域住民が、共通の目的を実現するために、信頼関係のもと、対等の立場で、それぞれの強みや特性を活かし、役割を持って協力すること」と定義づけた。

また、定藤丈弘 (1989) の先行研究から、マレ

一・G・ロスが提唱した「プロセス・ゴール」という考え方を取り上げ、「協働」の実現にはコミュニティにおける諸課題を明らかにしたり、取り組んだりするといった活動の中で、障がい者福祉施設の職員・利用者と地域住民の間にしだいに有効な相互作用や合意が形成され、信頼関係が構築されることで、協力・協働的な態度が育成されるというプロセスがあると考察した。

## 第 2 章 社会福祉施設と地域の関わりについて

第 2 章では、石井祐理子(2016)の先行研究をもとに、社会福祉施設は地域において「場所」としての役割、職員の「専門性」を活かした役割、「福祉教育」の役割が求められていること、そして社会福祉施設が役割を果たすうえで地域住民からの支えが不可欠であることを示した(石井 2016)。

さらに、大洞菜穂美・小櫃俊介(2025)の先行研究から障がい者福祉施設と地域住民の関わり的事例として「社会福祉法人あいのかわ福祉会・同愛会」を取り上げ、障がい者福祉施設が積極的に地域との交流を図り、信頼を築いたことで、施設が住民にとっての相談場所になったことや、住民の障がいへの理解を促すことにつながった事例を示した(大洞・小櫃 2025)。

## 第 3 章 調査対象の社会福祉法人とその地域との関わり方 - てりてりかんにいと武蔵野会 -

第 3 章では、調査対象である社会福祉法人てりてりかんにいと、社会福祉法人武蔵野会が運営する事業所の概要を整理した。また、それぞれの施設と地域との関わり方について、てりてりかんにいのジョイント・ほっとは住民の相談にのるというかたちで住民一人ひとりと関わっている一方、武蔵野会の事業所はまちづくりというかたちで地域全体と関わっているという違いがあることを明らかにした。

## 第 4 章 障がい者の福祉施設と地域住民の協働のプロセス

第 4 章では、聞き取り調査をもとに、障がい者福祉施設の職員・利用者と地域住民の協働実現までのプロセスについて、3つの段階に分けて考察した。「出会い」の項目では、地域の中で障がい者福祉施設の職員・利用者と地域住民が出会うことを通して、互いを知り、理解を深めるとともに、交流を深める契機が生じていることを示した。「一緒に活動する」の項目では、施設職員・利用者と住民と一緒に地域行事を運営する中で、親交を深め、徐々に信頼関係を築いていることを明らかにした。さらに、「助け合い」の項目では、一緒に活動することを重ねていく中で、互いに助け合っている側面があることを示し、助け合うことで生じる支え合い・お互い様の意識が協働の実現につながると考察した。

## おわりに

以上より、障がい者福祉施設の職員・利用者と地域住民が地域の中での出会いを通して互いを知り、理解や交流を深め、一緒に活動する中で親交を深め、信頼関係を築いている。また、一緒に活動する中で助け合える関係を構築しており、このプロセスが障がい者福祉施設と地域住民の「協働」を実現させていると考察した。

## 主要参考文献

- 石井祐理子, 2016, 「地域福祉活動における社会福祉施設の役割に関する一考察」『京都光華女子大学京都光華女子大学短期大学部研究紀要』54: pp. 137-147.
- 大洞菜穂美・小櫃俊介, 2025, 「社会福祉施設に対する地域からの承認」『福祉社会開発研究』特別号: pp. 115-129.
- 高森敬久・高田真治・加納恵子・定藤丈弘, 1989, 『コミュニティ・ワーク 地域福祉の理論と方法』海声社.
- 南多恵子, 2024, 『社会福祉施設と住民との協働関係の基盤』みらい.